



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月7日

上場会社名 株式会社トランスジェニック
 コード番号 2342 URL <http://www.transgenic.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福永 健司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理財務部長 (氏名) 渡部 一夫

TEL 092-288-8470

四半期報告書提出予定日 2020年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	7,892	22.9	72	28.3	38	39.6	23	
2019年3月期第3四半期	6,422	353.5	100		63		5	

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 26百万円 (%) 2019年3月期第3四半期 145百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	1.33	
2019年3月期第3四半期	0.30	0.30

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	7,553	4,861	64.4	279.91
2019年3月期	6,475	4,886	75.4	281.32

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 4,861百万円 2019年3月期 4,882百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,500	21.0	200	25.9	140	45.4	80	60.4	4.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	17,369,141 株	2019年3月期	17,358,141 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	1,421 株	2019年3月期	1,421 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	17,367,716 株	2019年3月期3Q	16,842,381 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績見通しのご利用に当たっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、当社は、当第3四半期連結累計期間に、新株予約権の行使により、新たに普通株式11,000株を発行しており、業績予想の「1株当たり当期純利益」は当該株式を含めて算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や設備投資を中心とした内需が底堅く推移し、緩やかな回復基調を維持しました。

当社グループが属するバイオ関連業界におきましては、大手製薬企業の中には成長の鈍化の中で事業の整理や人員の削減を図る企業もある反面、ベンチャー企業などにおいては新製品の研究・開発の動きが活発化しました。このような環境の中で、当社グループは次のような活動を行いました。

CRO^{*1}事業においては、既存顧客との取引を拡大・深化させるとともに新規顧客の開拓に注力し、受注強化に努めました。特に、株式会社安評センターでは大型動物飼育管理施設の修繕・整備を推進し、従来の中・小型動物に加え大型動物の非臨床試験の新規受注獲得の体制を整えました。また、株式会社ボナックとは、非臨床試験の受託拡大を目的として、同社が研究開発している核酸医薬品パイプラインの拡充及び実用化のために、当社グループの研究施設・実験機器、研究員の活用を提供する包括的な業務提携を行いました。しかしながら、大手製薬企業向けの受注が伸び悩み、当第3四半期連結累計期間におけるCRO事業の受注高は1,524,096千円（前年同期比0.9%増）と前期並みにとどまりました。

診断解析事業においては、一層の品質向上及び事業効率化に取り組むとともに、コンパニオン診断^{*2}システムを用いた検査サービス体制を整えるなど、遺伝子解析技術及び豊富な病理診断技術を活かしたサービスの拡充に取り組みました。また、網羅的がんクリニカルシーケンス^{*3}サービスの採用医療機関の確保に努め、さらには、子宮頸がんの早期発見に貢献すべく、子宮頸がんリスク検査である自己採取HPV^{*4}検査の有用性の啓蒙活動及び営業活動に注力するとともに子宮頸がん検診の普及に取り組む地方自治体との検査委受託契約締結を推進いたしました。

TGBS事業においては、Eコマース事業において売れ筋商品の仕入れに努めるとともに、消費税率引上げ後に予想された売上減少の影響を抑えるべく、プラットフォーム（大手通販サイト）経由の販路拡大に注力いたしました。また、TGBS事業のうち「その他」事業では、事業承継コンサルティング業務の取り組みを強化いたしました。さらに、2019年4月1日に連結子会社である株式会社TGビジネスサービスが、複層ガラス用副資材やガラス加工設備等の輸入販売を展開する株式会社TGMの全株式を取得し子会社化いたしました。そして、株式会社TGMにおいては、設備投資需要の取り込みを強化し、主力商品であるガラス加工設備の受注獲得に注力いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、第1四半期連結会計期間より連結グループに加入した株式会社TGMの売上が寄与し、7,892,413千円（前年同期比22.9%増）と前年同期比で大幅な増収となりました。しかし、株式会社TGMの利益が大きく寄与した一方で、CRO事業において受注高は前期並みに推移したものの当第4四半期以降における売上予定の受注が多かったことや株式会社安評センターにおいて設備及び人材に対する受注強化のための先行投資を進めたことで固定費が増加したことから、営業利益につきましては72,223千円の黒字（前年同期比28.3%減）に留まりました。なお、経常利益につきましても同様に、38,462千円の黒字（前年同期比39.6%減）に留まったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、法人税等を計上したことにより23,119千円の赤字（前年同期は5,067千円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

なお、当社グループの売上高は、TGBS事業を除き季節的変動が著しく、下半期（特に第4四半期）に売上高が集中する傾向にあります。

^{*1} CRO : Contract Research Organization(医薬品開発業務受託機関)

^{*2} コンパニオン診断 : 分子標的薬が、投薬対象者に有効かどうかを投与前に予測するために、標的分子の発現量や関連遺伝子変異、遺伝子多型などのバイオマーカーを検査し診断すること

^{*3} クリニカルシーケンス : 次世代シーケンサー（DNAを構成する塩基の配列を高速で読み取り、ゲノム情報を解読する装置）を用いて、がん細胞の遺伝子変異を網羅的に解析し、診断や治療の参考となる知見を得るための解析手法

^{*4} HPV : Human papillomavirus(ヒトパピローマウイルス)

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。各セグメントの業績数値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

セグメント	売上高			営業損益		
	金額 (千円)	前年同期比		金額 (千円)	前年同期比	
		増減額 (千円)	増減率 (%)		増減額 (千円)	増減率 (%)
C R O 事業	1,320,944	△242,787	△15.5	△35,012	△202,329	—
診断解析事業	585,131	7,103	1.2	8,210	△2,302	△21.9
T G B S 事業	6,002,154	1,709,191	39.8	243,115	182,719	302.5
(Eコマース)	(3,842,622)	(△142,091)	△3.6	(27,066)	(△6,767)	△20.0
(その他)	(2,159,532)	(1,851,282)	600.6	(216,048)	(189,487)	713.4

(注) 括弧内の金額は、T G B S事業の各内訳金額であります。

① C R O事業

当事業では、医薬品・食品の臨床試験受託及び薬効薬理試験、安全性薬理試験、薬物動態試験、農薬・食品関連物質などの安全性試験などの非臨床試験受託を行っております。また、遺伝子改変マウスの作製受託、モデルマウスの販売や作製モデルマウスを用いた非臨床試験の受託、抗体作製受託、及び新規バイオマーカーの開発などを行っております。

当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、受注高は前期並みに推移したものの当第4四半期以降に売上予定の受注が多かったことから、売上高については減収（前年同期比15.5%減）となる中で、株式会社安評センターにおいて受注体制を強化するため設備及び人材に対する先行投資を進めたことで固定費が増加し、営業損益につきましても35,012千円の損失（前年同期は167,317千円の黒字）となりました。

② 診断解析事業

当事業では、病理専門医による豊富な診断実績及び最新のバイオマーカー解析技術を生かした高品質な病理診断サービス、遺伝子解析受託サービス及び個別化医療に向けた創薬支援サービスを行っております。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、病理診断の検体数は増加するとともに、遺伝子解析受託サービスも伸長し、売上高は前年同期比で増収（前年同期比1.2%増）となり、営業損益につきましても8,210千円（前年同期比21.9%減）の黒字となりました。

③ T G B S事業

当事業は、株式会社T G ビジネスサービスによる事業であり、M&Aによる新規事業の推進と幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援サービスを行っております。なお、内訳としてEコマース事業と「その他」事業とに区分しております。

Eコマース事業につきましては、年末商戦では前年以上の伸びを見せたものの、2019年10月の消費税率引上げ直後の落ち込みもあり、前年同期比で売上高は減収（前年同期比3.6%減）となり、営業損益につきましても27,066千円（前年同期比20.0%減）の減益となりました。

一方、「その他」事業につきましては、第1四半期連結会計期間より連結グループに加入した株式会社T G Mの売上が大きく寄与し、前年同期比で売上高は大幅な増収（前年同期比600.6%増）となり、営業損益につきましても216,048千円（前年同期比713.4%増）の大幅な増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間のT G B S事業の経営成績は、「その他」事業の増収増益が大きく寄与し、売上高は前年同期比で大幅な増収（前年同期比39.8%増）となり、営業損益につきましても243,115千円（前年同期比302.5%増）の大幅な増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は3,817,765千円となり、前連結会計年度末に比べ914,808千円増加いたしました。これは主に、仕掛品が208,164千円増加したほか、主として株式会社TGMの連結子会社化により現金及び預金が94,057千円、商品及び製品が245,729千円、その他流動資産が242,222千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は3,735,311千円となり、前連結会計年度末に比べ162,991千円増加いたしました。これは主に、設備投資により有形固定資産が52,245千円、主として株式会社TGMの連結子会社化により無形固定資産ののれんが73,091千円それぞれ増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,760,092千円となり、前連結会計年度末に比べ628,154千円増加いたしました。これは主に、株式会社TGMの連結子会社化により、買掛金が202,048千円、前受金が349,285千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定負債は931,235千円となり前連結会計年度末に比べ474,640千円増加いたしました。これは主に、未払金への振替による長期末払金が50,305千円減少したほか、子会社の資金調達及び株式会社TGMの連結子会社化により社債が280,000千円、長期借入金が225,627千円それぞれ増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は4,861,749千円となり、前連結会計年度末に比べ24,995千円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失を23,119千円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月10日に公表いたしました2020年3月期の業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,277,521	1,371,579
受取手形及び売掛金	694,171	814,432
商品及び製品	247,121	492,851
仕掛品	343,799	551,963
原材料及び貯蔵品	70,358	74,822
その他	270,743	512,965
貸倒引当金	△759	△848
流動資産合計	2,902,957	3,817,765
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,547,090	1,594,780
減価償却累計額	△448,779	△489,128
建物及び構築物(純額)	1,098,311	1,105,652
土地	812,230	812,230
その他	784,095	886,507
減価償却累計額	△532,929	△590,436
その他(純額)	251,166	296,070
有形固定資産合計	2,161,707	2,213,953
無形固定資産		
のれん	484,776	557,867
その他	12,819	34,897
無形固定資産合計	497,595	592,765
投資その他の資産		
投資有価証券	565,446	545,115
その他	350,071	389,989
貸倒引当金	△2,500	△6,512
投資その他の資産合計	913,017	928,592
固定資産合計	3,572,320	3,735,311
資産合計	6,475,278	7,553,077

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	53,045	255,093
未払金	408,252	378,751
短期借入金	130,000	180,000
1年内償還予定の社債	12,000	26,000
1年内返済予定の長期借入金	101,919	151,075
未払法人税等	82,318	39,736
前受金	247,605	596,890
賞与引当金	8,031	2,900
その他	88,766	129,644
流動負債合計	1,131,938	1,760,092
固定負債		
社債	12,000	292,000
長期借入金	289,523	515,150
長期末払金	115,610	65,305
退職給付に係る負債	24,463	24,880
その他	14,997	33,899
固定負債合計	456,594	931,235
負債合計	1,588,532	2,691,327
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,481,772	3,484,241
資本剰余金	1,229,718	1,232,307
利益剰余金	235,608	212,489
自己株式	△1,725	△1,725
株主資本合計	4,945,373	4,927,313
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△59,697	△59,567
為替換算調整勘定	△2,844	△6,278
その他の包括利益累計額合計	△62,542	△65,845
新株予約権	3,914	200
非支配株主持分	—	81
純資産合計	4,886,745	4,861,749
負債純資産合計	6,475,278	7,553,077

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	6,422,412	7,892,413
売上原価	5,373,792	6,654,903
売上総利益	1,048,619	1,237,510
販売費及び一般管理費	947,936	1,165,287
営業利益	100,682	72,223
営業外収益		
受取利息	3,532	3,478
為替差益	—	2,016
保険解約返戻金	—	42,297
その他	2,876	4,664
営業外収益合計	6,408	52,457
営業外費用		
支払利息	5,257	16,624
為替差損	2,283	—
持分法による投資損失	17,810	15,795
社債発行費等	—	8,105
買収関連費用	—	34,607
債権整理損	7,599	—
その他	10,501	11,085
営業外費用合計	43,452	86,218
経常利益	63,639	38,462
特別損失		
固定資産除却損	—	7,967
退職給付費用	23,779	—
特別損失合計	23,779	7,967
税金等調整前四半期純利益	39,859	30,494
法人税、住民税及び事業税	32,215	51,719
法人税等調整額	2,576	1,892
法人税等合計	34,791	53,612
四半期純利益又は四半期純損失(△)	5,067	△23,118
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	5,067	△23,119

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	5,067	△23,118
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△148,532	130
為替換算調整勘定	△2,321	△3,433
その他の包括利益合計	△150,853	△3,302
四半期包括利益	△145,785	△26,420
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△145,785	△26,422
非支配株主に係る四半期包括利益	—	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	CRO事業	診断解析事業	TGBS事業					
			Eコマース	その他	小計			
売上高								
外部顧客への売上高	1,558,571	570,877	3,984,713	308,249	4,292,963	6,422,412	—	6,422,412
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,160	7,151	—	—	—	12,311	△12,311	—
計	1,563,731	578,028	3,984,713	308,249	4,292,963	6,434,723	△12,311	6,422,412
セグメント利益	167,317	10,512	33,834	26,561	60,395	238,225	△137,542	100,682

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△137,542千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	CRO事業	診断解析事業	TGBS事業					
			Eコマース	その他	小計			
売上高								
外部顧客への売上高	1,313,962	583,472	3,835,447	2,159,532	5,994,979	7,892,413	—	7,892,413
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,981	1,659	7,175	—	7,175	15,816	△15,816	—
計	1,320,944	585,131	3,842,622	2,159,532	6,002,154	7,908,230	△15,816	7,892,413
セグメント利益又は 損失(△)	△35,012	8,210	27,066	216,048	243,115	216,313	△144,090	72,223

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△144,090千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、株式会社TGMの連結子会社化に伴う企業結合により1,011,959千円の資産を受け入れたため、前連結会計年度の末日に比べ「TGBS事業」のセグメント資産が著しく増加しております。

3 報告セグメントの変更等に関する情報

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社TGビジネスサービスが、株式会社TGMの株式を取得し同社を連結子会社としたため、報告セグメント「TGBS事業」へ含めております。